

遅播き用トウモロコシの高収量品種「P3577」

遅播き用品種「P3577」は、南方さび病抵抗性が強く、高収量が確保できる

背景・目的

- ・県内における飼料用トウモロコシの作付面積は1,977haで、春夏作における重要な飼料作物
- ・県酪農及び肉用牛生産近代化計画に掲げる飼料自給率の向上に向け、飼料作物優良品種の選定・普及が必要
- ・飼料用トウモロコシについて、収量性、耐倒伏性、耐病性等に優れた品種が求められている

成果の内容

「P3577」の特徴（「SH9904（スノーデント王夏）」との比較）

- ・南方さび病抵抗性は、耐病性のSH9904と同等で強い
- ・乾物収量は132%と高く、茎葉割合が高い
- ・肉用牛繁殖農家においても利用しやすい



「スノーデント王夏(左)」と「P3577(右)」の草姿

過去3年間の対指標データ(H25～H28 H26除く)

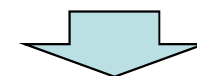
品種名	発芽 良否	初期 生育	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	倒伏 (%)	折損 (%)	病害			生草収量(kg/a)			乾物収量(kg/a)			(参考) 茎葉 割合
							南方 さび病	ごま葉 枯病	すす 紋病	茎葉	雌穂	合計	茎葉	雌穂	合計	
P3577	8.0	7.7	255	107	7.8	0.9	1.7	1.5	1.7	629	130	759	145	58	203	71%
スノーデント王夏	8.0	7.7	205	92	1.4	1.7	2.7	1.6	1.4	389	121	510	92	62	154	60%

注)発芽良否・初期生育:1~9良, 病害程度:1~9甚

導入
メリット

自給飼料の安定確保

飼料用トウモロコシのうち、遅播き用の作付面積は24%を占め、収量性等に優れた品種が必要である



晩生の「P3577」を追加することで、遅播き栽培における品種選択が充実し、より安定的な自給飼料の確保が期待できる

期待される効果

自給飼料の安定確保による県内酪農家、肉用牛農家の経営安定

鹿児島県農業開発総合センター 畜産試験場 企画環境飼料部 草地飼料研究室

普及対象・範囲

県内の肉用牛農家、酪農家

(高能力飼料作物品種選定調査)